



絵画部門。花、自画像、明るさが伝わってくるベトナムの風景、雨に濡れた歩道の透き通る描写など、多岐に渡る作品

秋のしあわせ時間「医家芸術祭」 創るよろこび 観るよろこび

鈴木江美の ほっと シーン

51



鈴木江美

フォトグラファー
／仙台市在住

櫻の葉が紅葉に染まる11月、仙台市医師会の「医家芸術祭」が盛大にメデアタークギヤラリーにて開催されました。昭和53年に始まった展示は今年で43回目という長い歴史を重ね、今回も絵画、写真、書、水墨画、篆刻、陶芸の力作が出品されました。

医師、看護師など医療従事者とその家族が出品された作品は51点。ポスターにもなっている油絵は、鋭い眼光と迫力のある闘牛が描かれ、その姿に圧倒されました。4枚構成の写真「カルガモ一家」は、子どものカルガモがまるで目の前を飛んでいくような臨場感が心が踊りました。木や石を緻密に彫った篆刻の印影、ステンドグラス、書道と、歩みを進める度に思わず顔を近づけて観てしまうほど。メモを取りながら鑑賞する人、椅子に腰掛けて見入る人とそれぞれ楽しみ、「淡

い黄色で描かれた雲の感じが面白くて、気に入ったなあ」との感想の声も。

市民の皆さんとの交流につなげていこうと、平成24年からスタートした音楽部門は感染症予防のために中止となりました。美しい歌声や楽器の音色を耳にできる優雅なひと時は、次の機会を楽しみに待ちたいと思います。

市民の健康を守るため、日々、医療現場で力を発揮している医療従事者の皆さん。多忙の中気持ちを入れて作り上げた力作の数々に触れ、心と体がふっと緩まるような、ゆったり和やかな展覧会でした。



「ドコービル機関車とジオラマ」。フランスの機関車を細かいところまで再現。背景のジオラマには、汗を拭う二人も



「カルガモ一家」—誕生から3ヶ月の成長を追う—成長した子どものカルガモが飛行する姿を捉えた感動の一瞬!



朱色の印影の美しさが、施された緻密な細工から浮き出てる